

疫病との闘い

えきびよう

今年、新型コロナウイルスが世界中で大流行していますが、歴史的にみると全世界では、はるか昔からさまざまな疫病（感染症）が流行してきました。日本で多くの疫病の治療法が確立されたのは、明治時代以降のことですので、それまで人々は、どのような方法で疫病と闘っていたのでしょうか。

3つの疫病

江戸時代、天然痘・はしか・水ぼうそうは、一生に一度はかかる3つの疫病として、人々に恐れられていました。中でもはしかは約20年に一度のペースで大流行し、文久2年（1862）の流行では、江戸だけで数万人が犠牲になったと言われています。この時は、養生の方法や食べ物・行動への戒め等を記した「はしか絵」という錦絵が多く、絵師によって描かれ、人々は予防や回復を願って買い求めたといえます。当時は、入浴や散髪、酒・魚・野菜の飲食を100日程度止めないと、病気を

が再発したり後遺症が残ったりすると信じられたため、風呂屋や床屋、魚屋などから客が消え、経済的混乱が起こったことが伝わっています。

コレラの流行

また、江戸時代末期の開国によって流行したのがコレラで、特に安政5年（1858）に中国から長崎へと来航した米軍の軍艦ミシシッピーによってもたらされたコレラは、たちまち全国に広まり、多くの犠牲者が出ました。コレラに感染した人はことごとく死亡することから、「三日コロリ」などとも呼ばれて人々に恐れられました。コレラの流行は、高島市に住む人々にも影響を及ぼしたようで、市内に残る複数の記録には、コレラという病名は登場しませんが、「三日ニテ死す病」または「不思議の病」が流行したことが記されています。もっとも、当時は決定的な治療薬もなく、この年に幕府から出された触書の内容は、身体

を冷やさないようにすることや大酒・大食を慎むことなどの予防策にとどまるものでした。

大般若経の書写

こうした疫病と闘った当時の人々の行動を伝える石碑が



市内に残されています。県道高島大津線と和田打川が交差する橋のたもとに建つ「書写 大般若経」と刻まれた石碑は、大溝城下に疫病が流行したことから、時の藩主の分部光貞が疫病退散を祈念して、大般若経の写経を埋めさせたその場所に建てたものと伝えられています。石碑には弘化3年（1846）の年号が刻まれています。（石碑は川の南側にあります。現在は北側に移動しています。）

参考文献：『高島町史』、『今津町史第2巻』、『高島の昔ばなし』
図文化財課 ☎（25）8559

編集感

今月号の表紙は、マキノ町森西地域にある田屋城跡からの眺望です。

田屋城跡は、森西地域を抜け、獣害対策の電気柵を越え、いきなり現れる急な斜面を登りきると、そこにあります。そこからはメタセコイア並木を南側から眺望できる絶好のスポットがあります。

皆さんに高島の絶景をお届けするためにも、紅葉した時期に再びこの場所から撮影したいと思います！（Y.O）



広報たかしま

令和2年

7

月号
No.246

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒502-0156 滋賀県高島市新旭町北畑のり番地

☎0740(25)8000代
http://www.city.takashima.lg.jp
✉t-info@city.takashima.lg.jp

近藤重蔵の業績とその顕彰

国後・択捉や蝦夷地の探検者として知られる近藤重蔵（1771～1829）は、江戸幕府に仕える役人でしたが、文政9年（1826）、56歳の時に、息子が殺傷事件を起こしたことで、その監督責任を問われ、大溝藩にお預けとなりました。その後、文政12年（1829）6月9日に逝去するまでの約2年間を、大溝城下の幽閉先の屋敷（大溝陣屋総門の南隣）で過ごしました。

文人としての活躍

江戸で生まれた重蔵は、幼い頃から学問に励み、17歳の時に「白山義学」と名付けた塾を設立して、近隣の子弟を教え始めました。24歳の時には、幕府に長崎奉行手付出役として登用され、海外事情に精通するようになり、『安南紀略』等の書物を著しました。重蔵は、この後も多くの書物を著し、後に大溝城下で幽閉生活を送った間にも『江州本草』という本草学の本を書いたことが伝わっています。

寛政10年（1798）から文化

4年（1807）の間の5度にわたる蝦夷地探検時には、現地の詳細な調査記録を残しています。現在その記録は東京大学史料編纂所が所蔵しており、『大日本近世史料』のうちの「近藤重蔵蝦夷地関係史料」として刊行されています。

業績の継承と顕彰

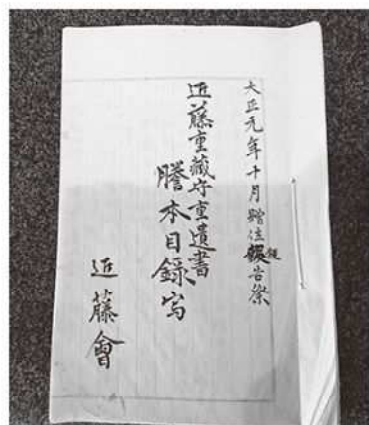
お預けの身として生涯を終えることになった重蔵ですが、明治時代になると、北方探検等の業績が改めて見直され、明治44年（1911）には、政府から重蔵に正五位が贈られました。これに先立ち、大溝町では重蔵の遺品の管理と業績の顕彰を目的とする「近藤会」が設立されました。なお、この会の役割は重蔵の150回忌にあたる昭和56年（1981）に

新発足した「近藤重蔵翁顕彰会」に、現在も引き継がれています。

重蔵の墓所は、勝野の瑞雪禅院の裏山にあり、正五位が贈られた明治44年に、大規模な改修整備が行われました。翌大正元年（1912）には、墓所の近くの大溝尋常小学校で贈位報告祭が行われ、滋賀県知事、滋賀県教育会長、大溝町長らが参列しました。当時の新聞によると、報告祭に併せて重蔵の遺品や遺墨の展示会が開催された他、県教育会主催の記念講演会が行われ、小川琢治京都大学教授が重蔵の業績について講演を行いました。

資料館での展示

顕彰会が保管してきた重蔵の遺墨や遺品は、現在、高島市に寄贈され、高島歴史民俗資料館の収蔵庫で保管されています。資料館では、重蔵が亡くなった6月に、遺品の一部や重蔵の業績を紹介する展示会を開催しています。（本年度の展示については、26ページの文化情報ともしび参照）



近藤会目録



近藤重蔵の墓

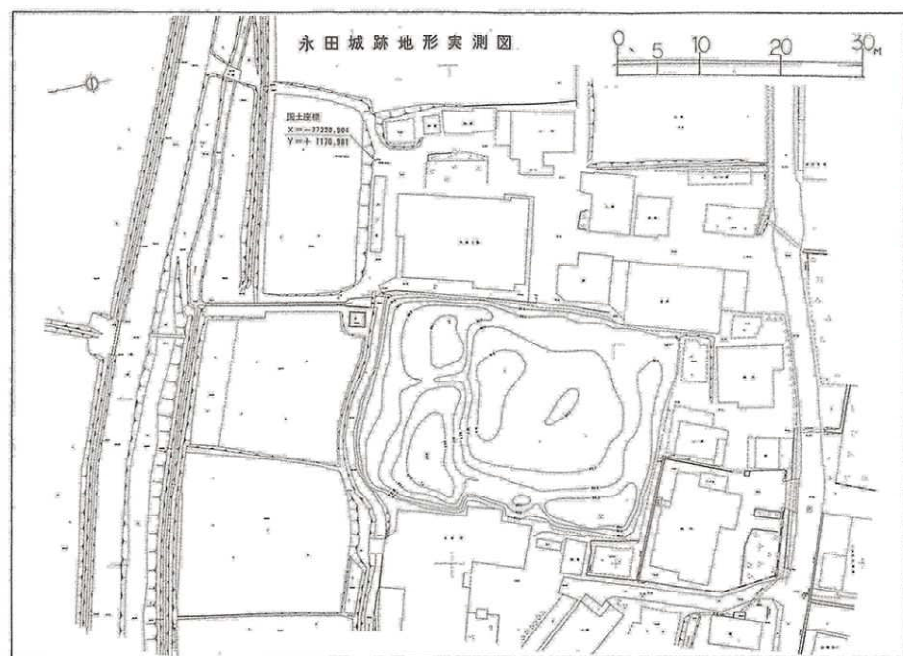
永田城跡と法界地蔵

高島七頭がいた城跡

上永田の集落を訪れると大きな森が2か所、目に入ります。集落の西側の森が※式内社の長田神社（祭神は水神の性格をあわせもつ事代主神とされる）で、北側の森が永田城跡にあたります。

城主の永田氏は高島七頭の一家で、嘉禎元年（1235）佐々木信綱の二男高信が高島郡田中郷の地頭職になり、その一族が越中・能登・朽木・永田・横山・田中・山崎です。

これらの武士団は、鎌倉幕府の「在京人」や室町時代には幕府の「奉公衆」として活躍しました。上永田周辺には、「城出」や「堀ノ内」の地名が残されていて、かつて城が存在していたことを想起させてくれます。



永田城跡地形実測図

また、「てらかやぶ」と呼ぶ現地には一辺約40m×25mの規模を有する長方形の郭があり、南・北・東面に土塁の遺構が確認できます。（図参照）現在は単郭の様相ですが本来は複郭の平城と想像されます。

指定文化財の石仏

永田城跡の南方には、天台真盛宗長盛寺があります。山門は平安時代の山岳寺院である長法寺から移されたといわれています。

山門西には北面する石造の地藏立像がおられます。地元では「法界地藏さん」と呼び親しまれ、霊験あらたかなお地藏さんで足の痛みなどに良く効くと伝えられ、お水をあげるとよいとのことでもお参りされる方が多いそうです。

像高は1.27mで、下部から1.68m、幅55cmの舟形光背をつけた丸彫です。像容は、右手に錫杖、左手に宝珠をのせています。お顔は風化がみられます。製作年代は鎌倉から室町時代と推定され市指定文化財になっています。この法界地藏は永田城跡と相まって上永田の歴史を今に伝えてくれています。

法界地藏さん



長盛寺山門と法界地藏さん

※式内社 平安時代に編さんされた『延喜式』神名帳に記載されている神社

問 高島歴史民俗資料館

☎ (36) 15553

琵琶湖の渇水と湖底遺跡

琵琶湖の渇水

昨年は、台風が上陸せず好天が続いたことによる琵琶湖の渇水が話題となりました。この渇水では、県内外の取水制限が検討されるなど、この冬は近畿一円の暮らしなどに大きな影響が出ることが指摘されています。

一方、この渇水による水位低下は、明智光秀が築いた「坂本城本丸石垣」の一部や、羽柴秀吉が長浜城築城時に使用したと伝わる「太閤井戸跡」の全容など、普段は水中に隠れている遺構が県内各地の湖底遺跡から現れたことなど

が話題となりました。

琵琶湖の湖底遺跡

現在、琵琶湖やその内湖にある湖底遺跡は、県内で104か所ほど確認されています。人々の生活の痕跡が遺物と共にそのまま埋没していることが特徴で、琵琶湖水位の上昇や地盤沈下によりかつて陸地に位置していたものが、水没したと考えられています。

市内には、14か所の湖底遺跡が知られています。発掘調査等により湖岸から100m程の沖合に形成された弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡と詳細が



主な湖底遺跡の位置図

判明している森浜遺跡や針江浜遺跡の他に、『高島郡誌』（昭和2年刊行）には、三ツ矢千軒など、水没した集落や水田跡につ

いて伝承する遺跡が存在します。また、森浜から木津にかけての湖中には「殿様の隠れ道」と呼ばれる浜堤（湖岸に沿って堤状に形成された地形）が存在し、ここからは、須恵器などの土器が採集されています。今後、市内の湖底遺跡でも、渇水状況によりその姿を現わすことがあるかもしれません。

記録にみる水位低下

古い記録の『大乗院日記目録』や『太平記』などには、康安2年（1362）には6月から11月まで干ばつが続き、琵琶湖の水位が三丈六尺（約10m）低下したようすの記録が残っています。水位低下により「白鬚ノ明神ノ前二テ、奥二二人シテ抱許ナル檜木ノ柱ヲ、アワイ一丈八尺ズツ、立双ベテ、二町余ニ渡セル橋見ヘタリ」とあり、白鬚明神前の湖中にヒノキの巨木で築かれた二町（約200m）余りの橋が出現したとされています。

これらの数値は誇張して記載されていると考えられますが、琵琶湖の水位低下により現われるさまざまな痕跡に人々が大いに驚くよ



針江浜遺跡発掘のようす

うすは、今も昔も変わらないのかもしれません。

岡文化財課



(25) 8559

阿弥陀寺と杉谷善住坊

阿弥陀寺の結界石

高島市新旭町旭(堀川)に所在する阿弥陀寺は、古くは明徳2年(1391)9月28日の奈良の西大寺末寺帳にその名が記されています。現在は、一棟の庫裏を残す阿弥陀寺ですが、足利尊氏や織田・豊臣氏から寺領の寄進を受けるなど、かつては大規模な寺院であったことが伺えます。その痕跡を今に伝えるものとして、かつて寺域の東西一町(約100m)、南



阿弥陀寺 宝篋印塔と結界石

北一町半(約150m)の四方に立てられていた結界石(寺域の境界を示す石)が、境内地に現在残されています。明和(1764)1772年)年間の年号が刻まれた宝篋印塔とよばれる仏塔を中心に、その四隅に計4基の結界石が建てられています。表面には、梵字と共に多聞天、持国天、增長天、広目天と呼ばれる四天王が刻まれ、その下部には「高島郡阿弥陀寺」と刻まれています。これらの石造物は、かつての阿弥陀寺の存在を今に伝えますが、この阿弥陀寺には歴史上の人物である織田信長にまつわる逸話が残っています。

織田信長の狙撃

織田信長は、元龜元年(1570)4月に越前朝倉氏への攻撃中に浅井長政の裏切りにより窮地に追い込まれ、朽木谷を通過して京都に撤退します。この朽木越えで京都に逃げ帰った翌月、京から岐阜城に戻ろうとした際、信長は近江と伊

勢を結ぶ千草越とよばれる峠道(東近江市)で狙撃されます。

『信長公記』と呼ばれる信長の行動を記録した資料には、「鉄砲の名手であった杉谷善住坊は、六角氏の依頼を受け、千草峠を通過しようとする信長をわずか12・13間(20m程)の距離から鉄砲2発の銃弾を放った。このときは信長の身を少しかすめただけで終わり、信長は5月21日に岐阜へ無事帰還を果たす。そして、信長狙撃に失敗した善住坊はいち早く姿をくらました。」と、その時のようすが記載されています。

阿弥陀寺と住谷善住坊

その後、善住坊は高島郡まで逃げ延び、堀川村の阿弥陀寺に隠居していました。信長は逃げた善住坊を徹底捜査し、天正元年(1573)9月に、信長の家臣で新庄城の城主として高島郡の支配を命じられていた磯野員昌によって捕らえられ、岐阜に送られ、極刑に処されたとされています。

阿弥陀寺に残る、戦国時代の逸話や多くの石造物は、往時の寺の姿を今に伝えながら静かにたたずんでいます。

文化財課 ☎(25)8559



阿弥陀寺 位置図

近藤重蔵と瑞雪禅院

北方探検の先駆者

近藤重蔵

近藤守重(1771~1829)

は江戸後期の北方探検家です。

江戸の人で通称重蔵、号は正斎・昇天道人でした。寛政10年(1798)松前蝦夷地御用となり、数回にわたり千島方面を探検し、択捉島に「大日本恵登呂府」の本標を建てるなど北方の防備開拓に尽力しました。重蔵は、探検の功などにより書物奉行に任ぜられました。

ました。

文政9年(1826)5月18日、

鑓が崎(現在の東京都目黒区)の別荘において息子富蔵が境界争いで塚越半之助ら7人を殺傷する事件を起こします。罪人となった富蔵は八丈島へ流罪に、父重蔵は「監督不行届」ということで、近江大溝藩分部家にお預けの身となりました。

重蔵と大溝藩

大溝藩での重蔵の獄舎は、陣屋総門を入って突き当たり左に位置し、現在同地を訪ねると石標があります。この地で重蔵は幽閉生活を送り、大溝藩士との交流を深めました。

文政12年(1829)6月

9日近藤重蔵は59才で悲傷のうちに病没しました。検死は7月16日に行われ、大溝の山の手にある大溝藩主分部家ゆかりの瑞雪禅院墓地に葬られました。重蔵の

墓石の表には、藩士分部準輔の揮毫によって「近藤守重之墓」、裏側には法名「自休院俊峯玄逸禅定門」、左右に「文政十二年己丑年」「六月十有六日」と刻まれています。これは、徳川家斉公十三回忌にあたり、改易を赦免されたのを機に、大溝藩が藩主の菩提寺圓光禅寺の寶洲和尚に命じて法号を授けるとともに、墓石の裏に刻ませたのです。

重蔵の顕彰

明治44年(1911)9月15日、

明治政府から近藤重蔵に対し北方探検の功績により正五位が贈られ、翌大正元年大溝尋常小学校で盛大な贈位報告祭が挙行されました。これに先立ち、重蔵の遺品管理や顕彰のため「近藤会」が設立され、重蔵の百五十回忌にあたる昭和56年(1981)には、新たに「近藤重蔵翁顕彰会」が発足し今日にいたります。

問 高島歴史民俗資料館

☎ (36) 1553



近藤重蔵墓所

「近藤重蔵遺品展」のお知らせ

時 6月1日(木)~30日(金) ※月・日・休館

所 高島歴史民俗資料館

主な展示品

- 「近藤重蔵甲冑肖像画」
- 「近藤重蔵の書翰」
- 「近藤重蔵の遺品」
- 「近藤様御容体書」
- 「近藤重蔵の書翰」

問 高島歴史民俗資料館

☎ (36) 1553

本イベント は終了して います

大溝城から大溝陣屋へ

織田一族の城

JR近江高島駅で下車をして東側に出ると、右手に見えるのが高島市民病院の建物です。そのさらに東向こうを眺めると、苔むした石垣があるのが分かります。ここ

が天正6年(1578)に織田信長の甥にあたる信澄(磯野員昌が養父)が築城した大溝城の天守台の石垣です。

今に残る古絵図によると、城の

本丸には天守と櫓が配され、そこを囲む城堀は乙女ヶ池を通じて琵琶湖につながっていたことが分かります。また、天守を囲む侍町には、多くの家臣たちが屋敷を構えていました。

天正10年、本能寺の変が起こり織田信長が明智光秀によって討たれると、光秀の娘を妻にしていた信澄にも嫌疑がかかり、信澄は丹羽長秀らの襲撃をうけて大阪城で自害しました。

信澄の死後、城主は次々と変わり、役割を終えた天守は、甲賀の水口岡山城に移築されました。

大溝陣屋の形成

天下分け目の関ヶ原合戦の後、

江戸幕府が成立すると、元和5年(1619)伊勢上野城から分部光信が2万石の大溝藩主として45人の家臣団を伴って着任し、城下に大溝陣屋を形成しました。

大溝陣屋は大溝城三の丸付近に造られました。藩政の中心となる御殿の位置は現在の分部神社周辺

にあたり、家臣団が住む武家屋敷群はさらに西側に建てられました。その陣屋の正門であった総門は、現在保存復原修理が進み、往時をしのばせる佇まいが戻ってきました。令和6年度には一般公開される予定です。

大溝城跡と大溝陣屋総門は、それぞれ大溝の歴史を伝える遺構として、国の重要な文化的景観「大溝の水辺景観」の重要な構成要素として保存継承されています。

高島歴史民俗資料館では11月1日~12月10日まで「大溝城から大溝陣屋へ」を開催します。

「大溝城から大溝陣屋へ」のお知らせ

期 11月1日(水)~12月10日(日) 月・火休館
所 高島歴史民俗資料館

主な展示品

- 大溝城下古図
- 大溝城天守台周辺出土瓦
- 大溝陣屋周辺出土焼塩壺
- 大溝陣屋古図 他

本イベントは終了しています
〈展示品の中の一つ〉
『瑞雪禅院梵鐘』(高島市指定文化財)
この梵鐘は、伊勢上野城時代、
当時城主であった光勝の
ために建立した光勝寺に、養子光信が慶長20
年(1615)に大溝に移され、同梵鐘も現在瑞雪禅院
の所蔵となっています。

総高：79.3cm 口径：51.5cm 重量：83.6kg



瑞雪禅院の梵鐘

問 高島歴史民俗資料館

☎ (36) 1553

コンピュータグラフィックスで再現 大溝城

織田家の城「大溝城」

大溝城は、織田信長が新庄城（新旭町）にいた織田信澄（信長の甥）に命じて、天正6年（1578）に築城させたもので、設計には明智光秀が携わったとされています。安土城、長浜城、坂本城と合わせて湖上のネットワークを担う、琵琶湖の支配権を掌握する重要拠点でもありました。全貌は明らかではありませんが、天守台跡と考えられる石垣が乙女ヶ池（内湖）に隣接して残っていることから、内湖を巧みに利用した水城であったことがうかがえます。天正10年（1582）に城主織田信澄が世を去った後、城主が目まぐるしく移り変わるなかで解体され、一部は水口岡山城に移築されたといわれています。



大溝城CG（制作途中）

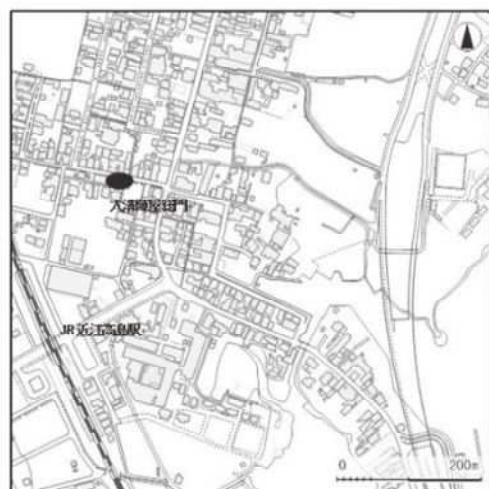
現代技術で蘇る大溝城

失われてしまった大溝城の当時の姿を再現するために、本市ではコンピュータグラフィックスによる再現映像制作プロジェクトが進行中です。このプロジェクトでは、直近の発掘調査報告書である

「大溝城遺跡発掘調査報告書―平成27～30年度―」を基に、城郭の設計図案を作成し、コンピュータによって立体画像化します。文化財や建築学に詳しい専門家に監修を受け、在りし日の大溝城の姿をお見せしたいと考えています。

また、この映像では大溝城の再現のほか、大溝地域をドローンによって空撮し、「大溝の水辺景観」を紹介しています。4月に開館する大溝陣屋総門で公開を予定していますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。

図文化財課 ☎（25）85559



大溝陣屋総門位置図

施設休館のお知らせ

- ◎近江聖人中江藤樹記念館は、施設改修のため4月1日から令和7年3月31日までの間休館します。
- ◎高島歴史民俗資料館、朽木資料館、マキノ資料館での資料展示は、3月31日をもって終了します。なお、3館の展示資料の一部は改修後の施設で公開する予定です。